

平成19年6月14日
農 林 水 産 省

平成 19 年度病虫害発生予報第 3 号

向こう1か月の天候は、東日本と西日本で平年と同様に曇りや雨の日が多く、南西諸島では前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多いと予想されています。

今後、梅雨を迎える時期ですので、水稻のいもち病などの病害の発生が懸念されることから、発生初期での適切な防除を行ってください。

病虫害防除に当たっては、天候の状況に注意しつつ、都道府県の発生予察情報に留意し、地域ごとの防除要否を見極めて、適切な防除を行ってください。

【用語の解説】

【発生量（程度）】

多 い (高 い)	やや多いの外側 10%の度数の入る幅
やや多 い (やや高い)	平年並の外側 20%の度数の入る幅
平 年 並	平年値を中心として 40%の度数の入る幅
やや少 ない (やや低い)	平年並の外側 20%の度数の入る幅
少 ない (低 い)	やや少ないの外側 10%の度数の入る幅

(平年値は過去10年間の平均)

【地域】

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	
東北	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
関東	山梨県	長野県					
甲信	新潟県	富山県	石川県	福井県			
北陸	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県			
東海	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	
近畿	鳥取県	岡山県	広島県		山口県		
中国	徳島県	香川県	愛媛県	高知県			
四国	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
九州	沖縄県						

北 東 北 北 東 東 九 州
南 關 關 九 州
北 東 北 東 東 九 州
南 關 關 九 州
北 東 北 東 東 九 州
南 關 關 九 州

青森県、岩手県、秋田県、
宮城県、山形県、福島県、
茨城県、栃木県、群馬県、
埼玉県、千葉県、東京都、神奈川
福岡県、佐賀県、長崎県、大分
熊本県、宮崎県、鹿児島県

【稲】

天候が日照不足・低温傾向になると、葉いもちの発生しやすい条件となります。このような天候が続くと、葉いもちの発生が懸念されますので、十分注意してください。葉いもちの発生を認めた場合には、早期に薬剤を散布してください。

また、移植が終了している地域で水田に放置したままの補植用取置き苗は、いもち病の伝染源になるので、本田から早期に除去してください。

イネクビホソハムシ（イネドロオイムシ）の発生は北関東の一部地域で「やや多い」、イネミズゾウムシの発生は北陸及び近畿の一部地域で「やや多い」、フタオビコヤガの発生は北東北の一部地域で「多い」、近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。

ヒメトビウンカの発生は東海の一部地域で「やや多い」と予想されます。箱施用剤による防除を実施していない地域では、本田侵入に十分注意し、発生を認めた場合には早期に薬剤を散布してください。

海外飛来性害虫については、セジロウンカの初飛来が静岡、福岡及び鹿児島で5月25日に確認されています。今後の飛来及び本田での発生状況に十分注意してください。

【麦】

現在、開花期を迎えている北海道及び東北での麦類赤かび病の発生は平年並みと予想されます。麦のデオキシニバレノール汚染の原因となる赤かび病は、開花期の穂に感染し、高温、多雨傾向になると発生が助長されるため、あらかじめ出穂・開花期を予測し、適切な薬剤防除を行ってください。また、出穂・開花期に降雨が続く場合には、雨の合間を見て追加の防除を行ってください。さらに、被害粒の混入が見込まれる場合は、健全粒と区分して乾燥調製を行う等、赤かび粒の混入しないよう努めてください。

【ばれいしょ】

疫病の発生は平年並みと予想されます。本病害は降雨により発生が助長されるので、降雨の合間を見て薬剤を散布して下さい。

【果樹】

（果樹共通）

果樹カメムシ類の発生は東北、北関東、四国及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。例年、カメムシ類の被害が多い園地や山林に隣接した園地では、園内観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合には直ちに薬剤を散布してください。

（かんきつ）

そうか病の発生は九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。例年、発生が多い園地では、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、発生に応じて薬剤散布を実施してください。

黒点病の発生は四国の一部地域で「やや多い」と予想されるほかは、平年並み以下と予想されます。伝染防止のため枯れ枝は除去し、発生に応じて薬剤散布を実施してください。また、降雨が続くと感染が拡大するので、降雨の合間を見て薬剤を散布してください。

かいよう病の発生は中国、四国及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されま

す。昨年、多発した園地では、越冬病斑が罹病葉及び罹病枝に多くみられています。伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、発生に応じて薬剤散布を実施してください。特に、風雨が強まることが予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。

ミカンハダニの発生は近畿、中国、四国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。降雨が少なく、高温条件となる場合、多発することが懸念されることから、発生初期での防除を徹底してください。

（りんご）

腐らん病の発生は南東北の一部地域で「多い」、甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。園内観察をきめ細かく行い、発病枝の除去、病斑部の削り取りと薬剤塗布を適切に実施してください。

ハダニ類の発生は北海道、北陸及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤を散布してください。

（なし）

黒斑病の発生は北東北及び北陸の一部地域で「やや多い」と予想されます。発生状況に注意して適期に薬剤を散布してください。

黒星病の発生は南東北の一部地域で「やや多い～多い」、関東、北陸、近畿及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。昨年多発した地域では発病葉、発病果及び発病した新梢の除去に努めてください。降雨が続くと感染が拡大するので、散布間隔が開き過ぎないように降雨の合間を見て薬剤を散布してください。

ナシヒメシンクイの発生は北九州の一部地域で「多い」、北関東の一部地域で「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤を散布してください。

（もも）

せん孔細菌病の発生は南東北、甲信及び北陸の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病は降雨や強風により発生が助長されるので、天候に注意し、適期防除を実施してください。また、摘果作業にあわせて発病枝を除去してください。

モモハモグリガの発生は南東北、甲信、東海及び四国の一部地域で「やや多い～多い」と予想されます。葉の潜孔被害が目立つ園地では、産卵後から若齢幼虫期をとらえた薬剤散布を実施してください。

（ぶどう）

べと病の発生は北陸及び東海の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病は降雨により発生が助長されるので、天候に注意して適期防除を実施してください。

（かき）

炭そ病の発生は四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。園内観察をきめ細かく行い、発病枝の除去を行ってください。幼果及び新梢での発生を抑えるため、適期防除を実施してください。

うどんこ病の発生は近畿の一部地域で「やや多い」、円星落葉病の発生は、北陸、東海及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。昨年、多発した園地では、本病の伝染時期を迎えているので、薬剤を散布してください。

フジコナカイガラムシの発生は近畿、四国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。早期発見に努め、発生を認めた場合は薬剤を散布してください。

【茶】

今後の発生量が多い・やや多いと予想される病虫害及び対象地域

病虫害名	発生が多い地域	発生がやや多い地域
炭そ病	-	近畿
もち病	-	南関東
カンザワハダニ	南関東	九州
チャノコカクモンハマキ	南関東、北九州	-
チャハマキ	-	南関東
チャノホソガ	北九州	東海、近畿、南九州
チャノミドリヒメヨコバイ	北九州	南関東
クワシロカイガラムシ	南九州	近畿
ツマグロアオカスミカメ	-	南関東
チャノキイロアザミウマ	北九州	南関東、近畿

炭そ病及びもち病は、新芽の萌芽から開葉初期に薬剤を散布してください。

チャノコカクモンハマキ及びチャハマキは、地域の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況に応じて、適期に防除してください。

カンザワハダニ、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、ツマグロアオカスミカメ及びチャノキイロアザミウマは、萌芽期に薬剤を散布してください。

クワシロカイガラムシは、ふ化した幼虫の発生状況を観察し、ふ化最盛期に薬剤散布を実施してください。

また、これからこれらの害虫の天敵類の活動が活発になる時期を迎えるので、天敵への影響が小さい薬剤を選択するよう心掛けてください。

【野菜】

（施設栽培・雨よけ栽培）

今後、曇りや雨の日が多く、湿度が上昇して病害の発生しやすい条件となります。うどんこ病については、湿度に関係なく感染が起これば発生するので、発生初期の防除を徹底してください。また、施設周辺に排水路を整備して雨水が施設内に入らないように留意し、作物の株間の通風を図る等、多湿にならないように施設を管理してください。さらに、病害の伝染源となる罹病葉や罹病果は施設外に除去し、土中に埋める等、確実に処分してください。

まもなく栽培終期を迎える施設作物では、栽培終了後は施設の蒸し込み処理を行い、施設内のアザミウマ類及びコナジラミ類について生存虫を死滅させてから搬出してください。

（露地栽培）

天候が日照不足・低温傾向になると、果菜類の疫病、灰色かび病、べと病が発生しやすい条件となります。ほ場観察を行い早期発見に努め、発生を認めた場合は薬剤を散布してください。

今後の発生量が多い・やや多いと予想される病害虫及び対象地域

作物名 / 病害虫名	発生が多い地域	発生がやや多い地域
ねぎ		
さび病	南関東	北関東
べと病	-	関東
アザミウマ類	北関東、北陸	南関東、中国、北九州
キャベツ		
コナガ	北東北	-
トマト		
灰色かび病	南関東	-
葉かび病	-	近畿
アブラムシ類	-	南関東、近畿
コナジラミ類	北関東	南関東
なす		
アブラムシ類	-	南関東
アザミウマ類	近畿	-
ピーマン・シシトウ		
アザミウマ類	北関東	-
きゅうり		
べと病	-	北陸
褐斑病	-	南東北
アブラムシ類	-	南関東、近畿
すいか		
うどんこ病	-	中国、沖縄
疫病	-	北陸
アブラムシ類	-	南関東、北陸
メロン		
うどんこ病	-	南関東
ハダニ類	-	南関東
いちご		
炭そ病	南九州	四国
うどんこ病	-	四国
ハダニ類	北九州	四国

【花き類】

(きく)

白さび病の発生は北陸、近畿、四国及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

また、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類及びハモグリバエ類の発生が、北陸及び南九州の一部地域で「やや多い～多い」と予想されます。

ほ場観察を行い、これら病害虫の早期発見に努め、発生を認めた場合は、発生初期での防除を徹底してください。

【その他】

前回（平成19年5月17日）以降、各都道府県が発表している注意報及び特殊報は下記のとおりです。

○注意報

発表月日	県名	作物名	病虫害名
5月17日	愛媛	キウイフルーツ、うめ、もも、なし、かき等	カメムシ類（チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ・クサギカメムシ）
5月25日	長崎	茶	チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ
5月29日	秋田	キャベツ	コナガ
5月31日	福島	もも	せん孔細菌病
6月6日	青森	にんにく	春腐病
6月8日	岩手	キャベツ	コナガ
6月11日	福島	りんご	腐らん病

○特殊報

発表月日	県名	作物名	病虫害名
5月23日	青森	にんじん	ニンジンハネオレバエ
5月24日	大阪	コナラ	ムラクモカレハ
6月11日	長野	アルファルファ	アルファルファタコゾウムシ

<平成19年度の病虫害発生予察予報の発表日程>

第1号	4月19日（木）・・・公表済み
第2号	5月17日（木）・・・公表済み
第3号	6月14日（木）・・・今回発表
第4号	7月12日（木）
第5号	7月26日（木）
第6号	8月9日（木）
第7号	9月6日（木）
第8号	11月29日（木）
第9号	2月28日（木）

連絡先 消費・安全局植物防疫課
防除第1班 大岡、城島
電話 直通（3502）3382
代表（3502）8111
内線 4562
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.maff.go.jp/www/press/press.html>